

有機農業及びモデルタウンを巡る動き

生産局 農業環境対策課

平成 2 1 年 7 月

農林水産省

有機農業の現状

1 有機農産物の生産量(有機JAS格付数量)

53, 446t(国内農産物生産量の0.18%)

2 有機農産物の認定事業者数

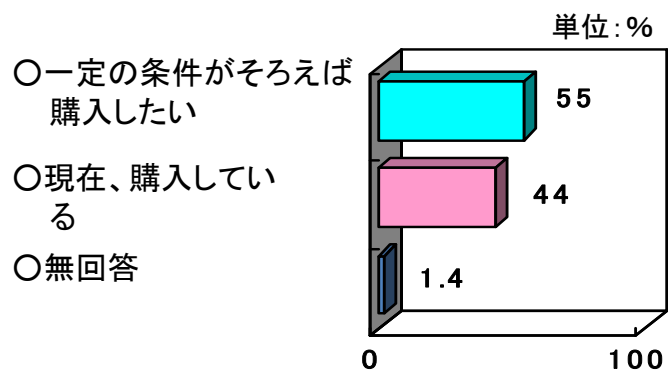
1, 999名

資料)消費・安全局 表示・規格課調べ(平成19年度)

3 消費者のニーズ

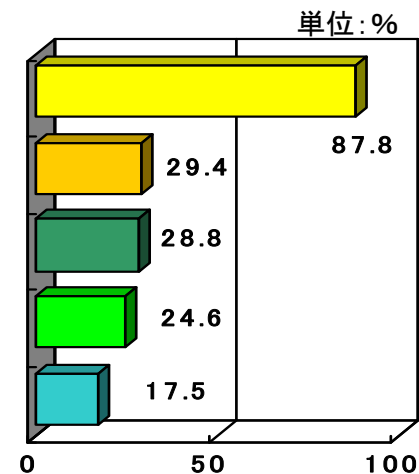
○ 消費者による有機農産物の購入

有機農産物購入に関する意向



有機農産物を購入したいと思う理由

- 安全な農産物だと思
うから
- 食味や栄養面で優
れていると思うから
- 環境保全に貢献し
たいから
- 健康上の理由から
- その他・無回答



資料)農林水産省 情報課調べ(平成19年度)

有機農業の推進について

① 有機農業の推進に関する法律(平成18年12月成立・施行)〔超党派による議員立法〕

○ 有機農業の定義(第2条)

有機農業とは・・・

【有機農業】

- 環境への負荷を低減した農業生産方法をいい、
化学的に合成された肥料及び農薬を使用しないこと並びに
遺伝子組換え技術を利用しないことが基本

○ 国及び地方公共団体が講ずる有機農業の推進のための施策等(第8条～第13条)

- ▶ 有機農業者及び有機農業を行おうとする者に対する支援
- ▶ 有機農業に関する技術の研究開発及びその成果の普及を促進するための、研究施設の整備、研究開発の成果に関する普及指導及び情報提供
- ▶ 有機農業に関する知識の普及及び啓発のための広報活動
- ▶ 有機農業者と消費者の相互理解の増進のための有機農業者と消費者との交流促進
- ▶ 有機農業の推進に関して必要な調査の実施
- ▶ 国及び地方公共団体以外の者が行う有機農業の推進活動に対する支援

有機農業の普及及び推進の目標

- ◆有機農業の技術体系の確立
- ◆有機農業の普及指導体制の整備(全都道府県)
- ◆有機農業に対する消費者の理解の増進
(有機農業の取組内容を知る消費者の割合が50%以上)
- ◆有機農業の推進計画の策定と推進体制の整備
(推進計画は全都道府県、
推進体制は全都道府県と50%以上の市町村)

○ 基本方針・推進計画の作成(第6条、第7条)

(平成19年4月策定、概ね5年ごとに見直し)

国 (基本方針)

- ①有機農業の推進に関する基本的事項
 - ②有機農業の推進及び普及の目標に関する事項
 - ③有機農業の推進に関する施策に関する事項
- 等について規定



都道府県(推進計画)

都道府県は国の基本方針に即し推進計画の策定に努める。

30都道県で策定 平成21年5月現在

平成21年度中に策定予定 16府県 (平成22年度中に策定予定 1県)

有機農業総合支援対策

全国段階

参入促進 普及啓発

- ・相談窓口の整備、有機農業者との交流会の開催
- ・技術情報の収集・提供
- ・有機農業セミナーの開催、メディアを活用した周知活動



地域段階

技術の習得

- ・有機農業技術支援センターの整備
- ・技術交流会の開催



有機(オーガニック)モデル タウンの育成

販路の確保 消費者との交流

- ・販路開拓のためのマーケティング活動
- ・農産物のPR、流通販売フェアの開催
- ・消費者との交流イベント



経営基盤の安定

- ・技術実証ほの設置
- ・有機種苗供給・土壌診断の推進
(有機農業技術支援センター)



有機農業総合支援対策

平成20年度

予算額 4億5,700万円

全国45地区のモデルタウンで事業執行

全国2地区(栃木、鹿児島)で施設整備
(技術支援施設、有機種苗生産施設、土壌診断施設)

平成21年度
(当初予算)

予算額 4億5,200万円

全国47地区でモデルタウン事業を実施中

全国3地区(宮城、群馬、岐阜)で施設整備予定

経済危機対策
(補正予算)

予算額 2億円

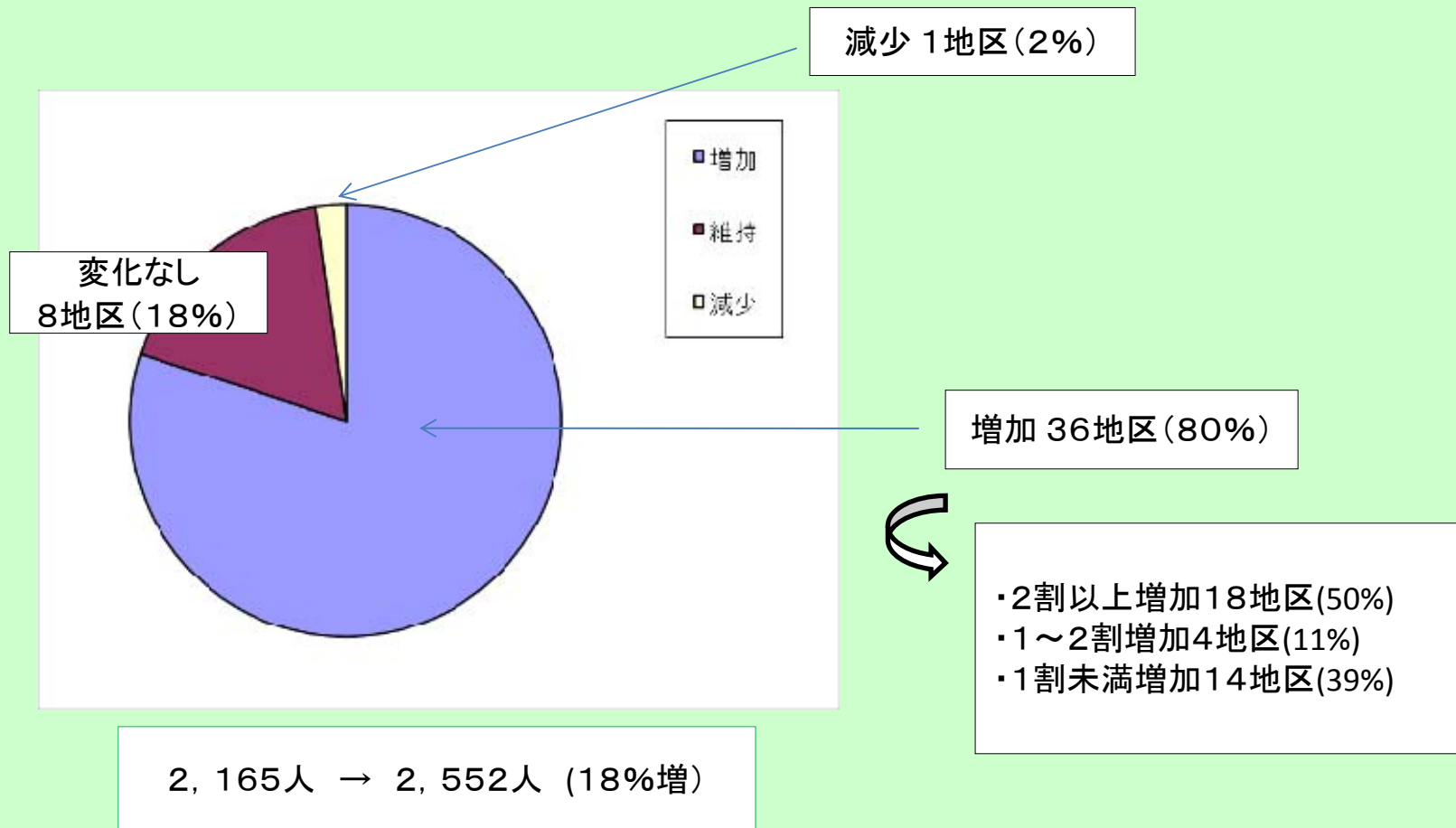
全国12地区でモデルタウン事業を採択見込

全国4地区で施設整備を採択見込

平成20年度地域有機農業推進事業(モデルタウン事業)実施状況調査結果

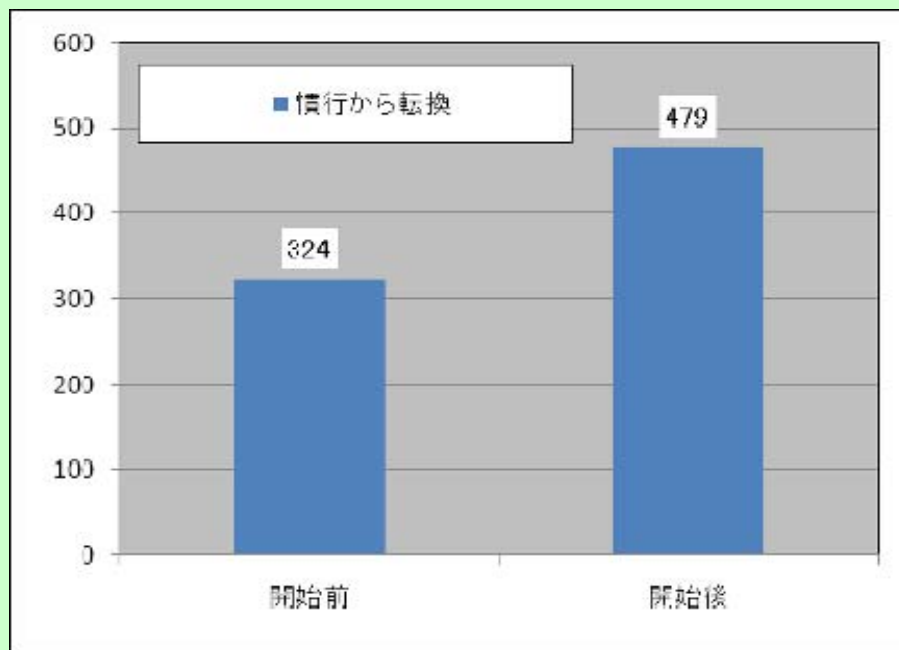
平成20年度のモデルタウン事業の実施45地区に対し、事業事業効果を調査

○有機農業者数の増減(回答数45地区)



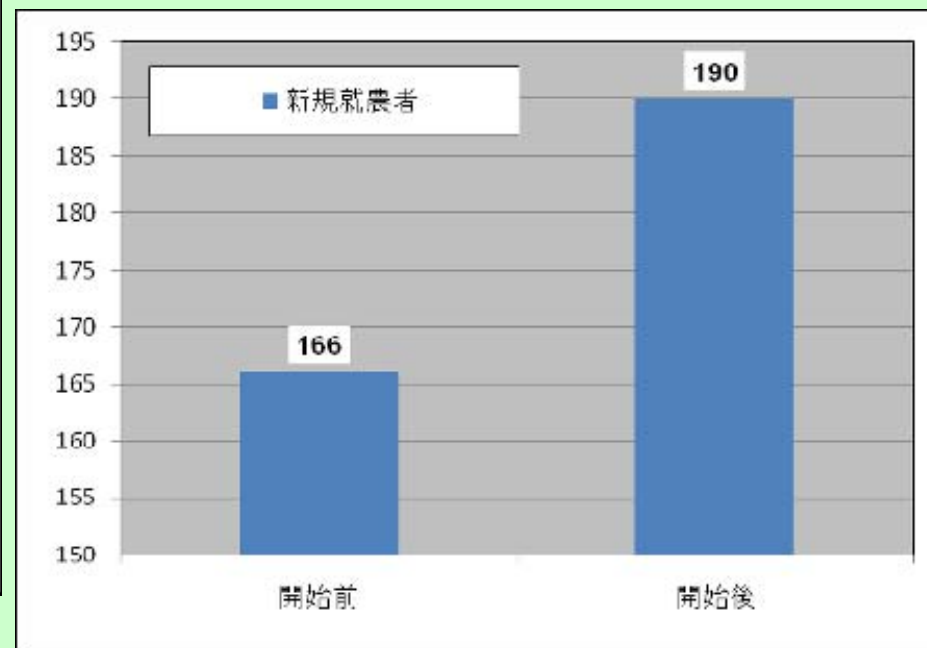
○慣行栽培から転換した農業者数(回答数29地区)

単位:人



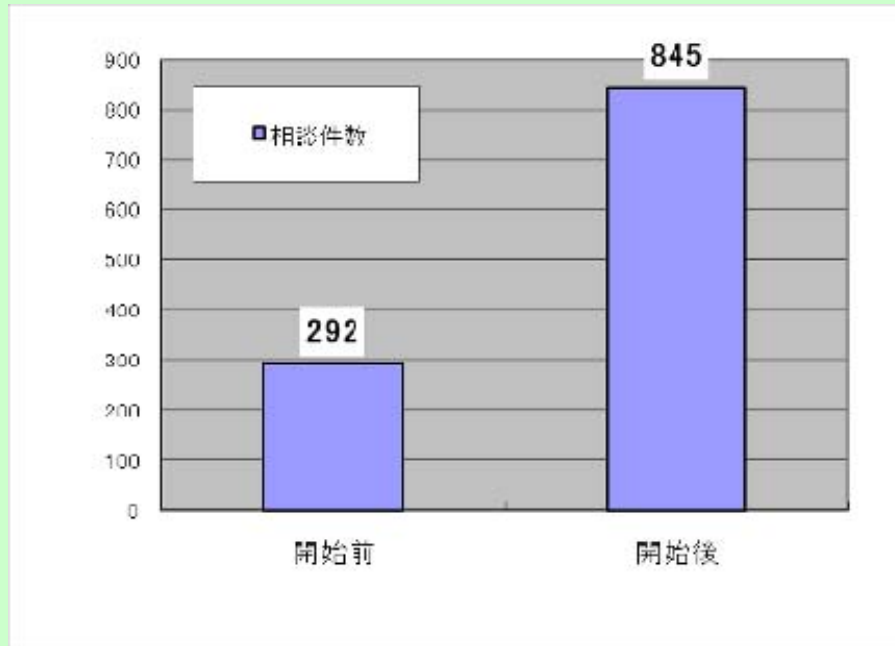
○新規に就農した農業者数(回答数22地区)

単位:人



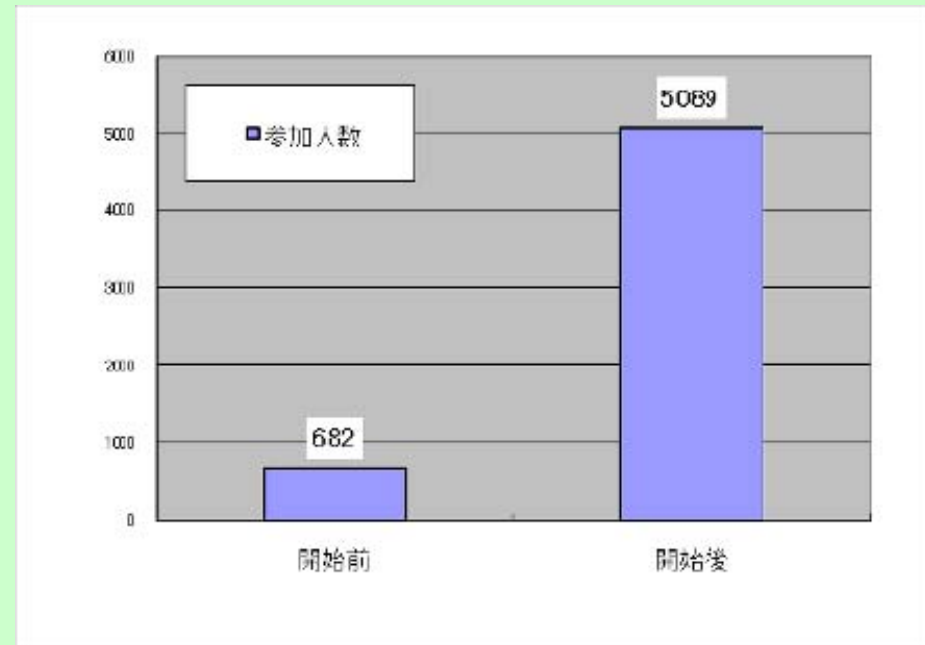
○有機農業への参入に関する相談件数(回答数38地区)

単位:人

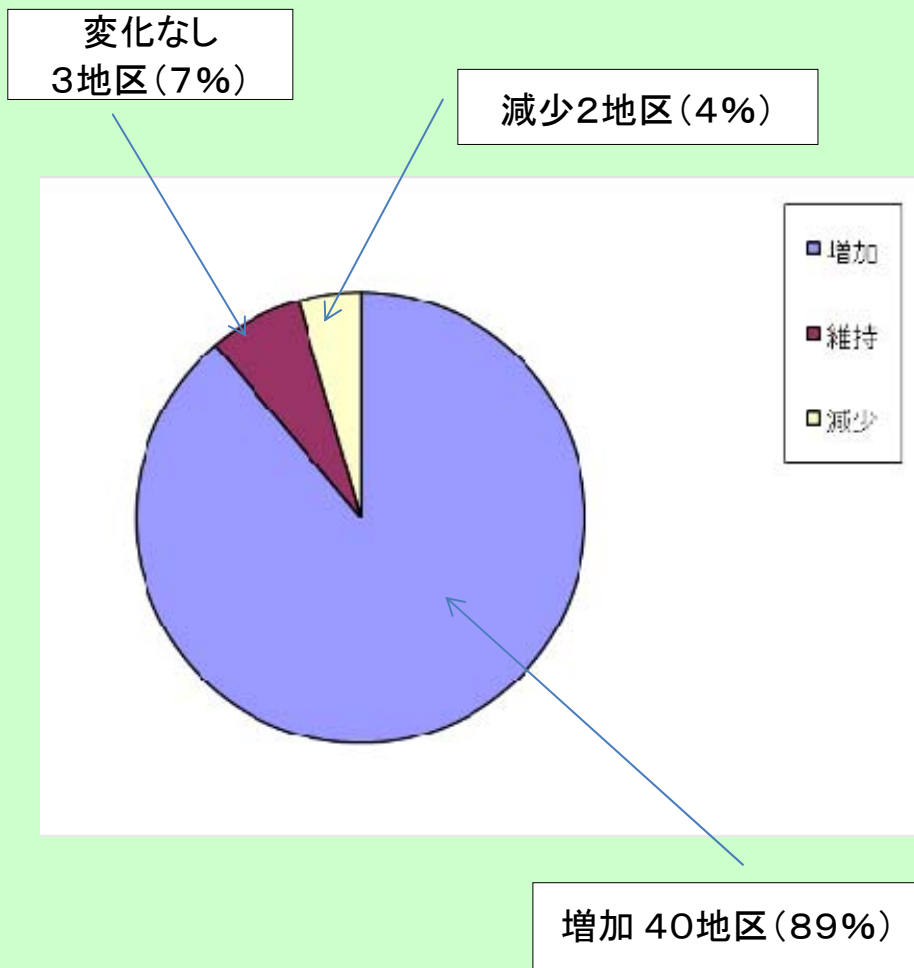


○有機農業に関する研修参加人数(回答数40地区)

単位:人

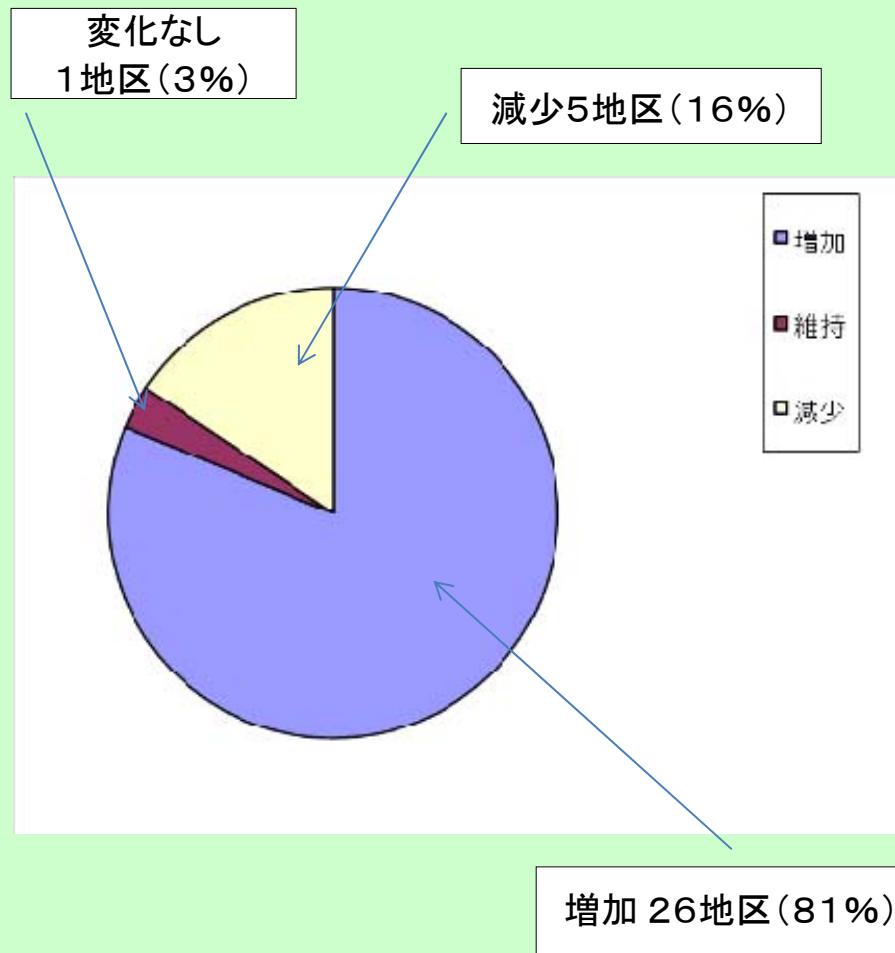


○有機栽培面積の推移(回答数45地区)



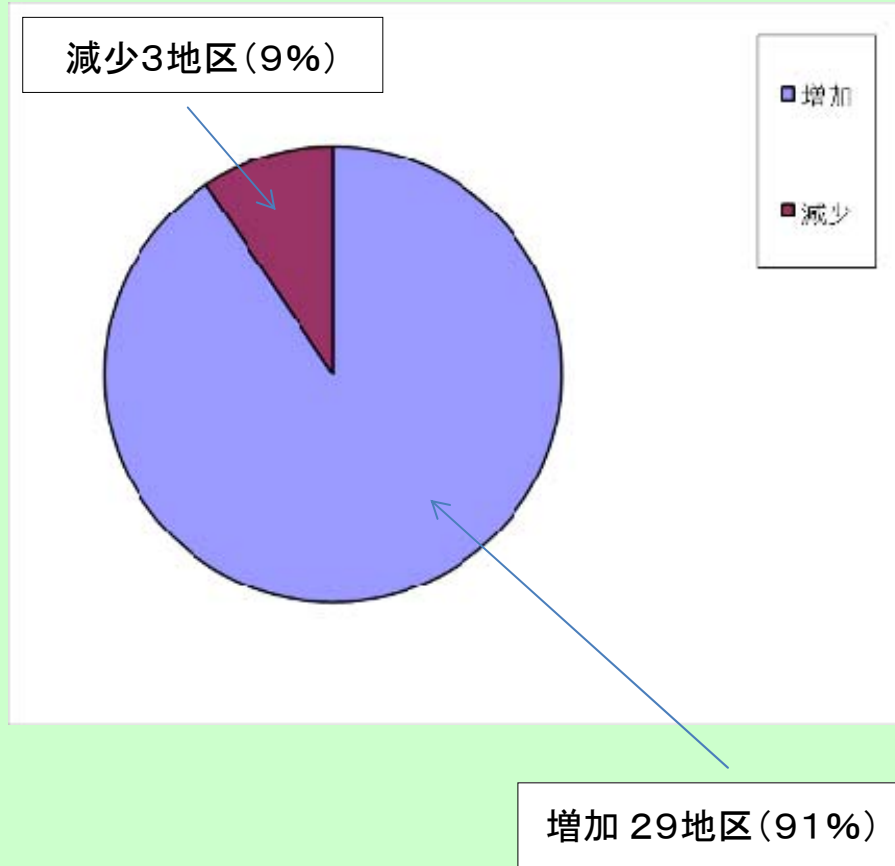
2,907ha → 3,074ha (6%増)

○有機農産物収穫量の推移(回答数32地区)

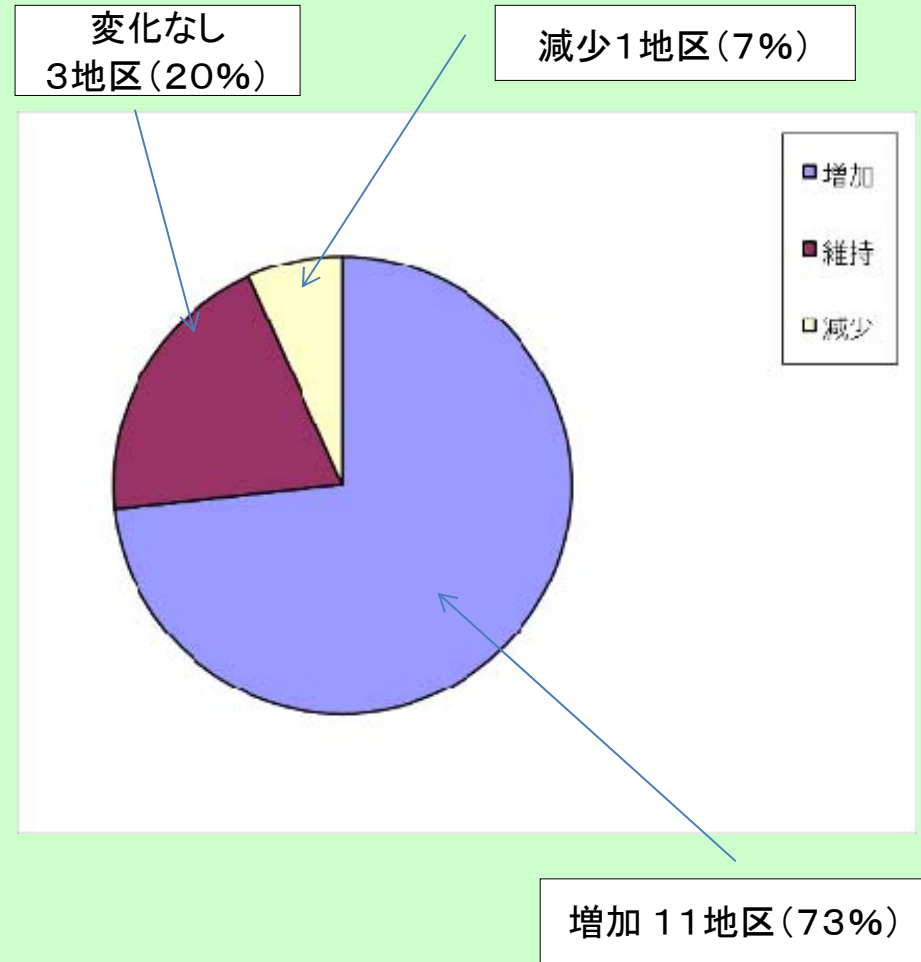


19,985t → 21,952t (10%増)

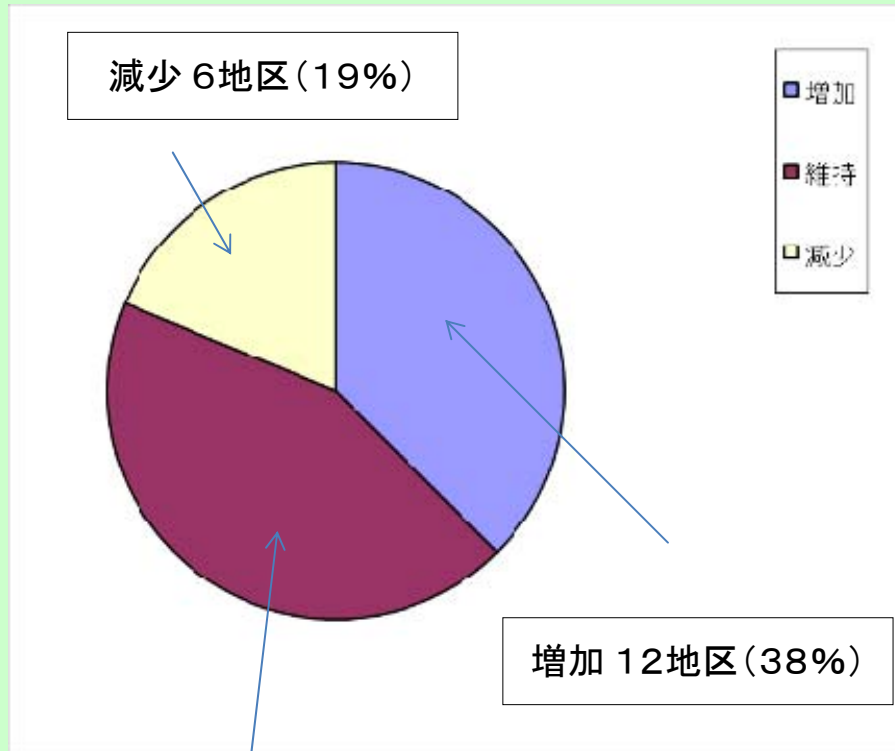
○有機農産物の取扱金額の推移(回答数32地区)



○流通・販売先の件数の推移(回答数15地区)



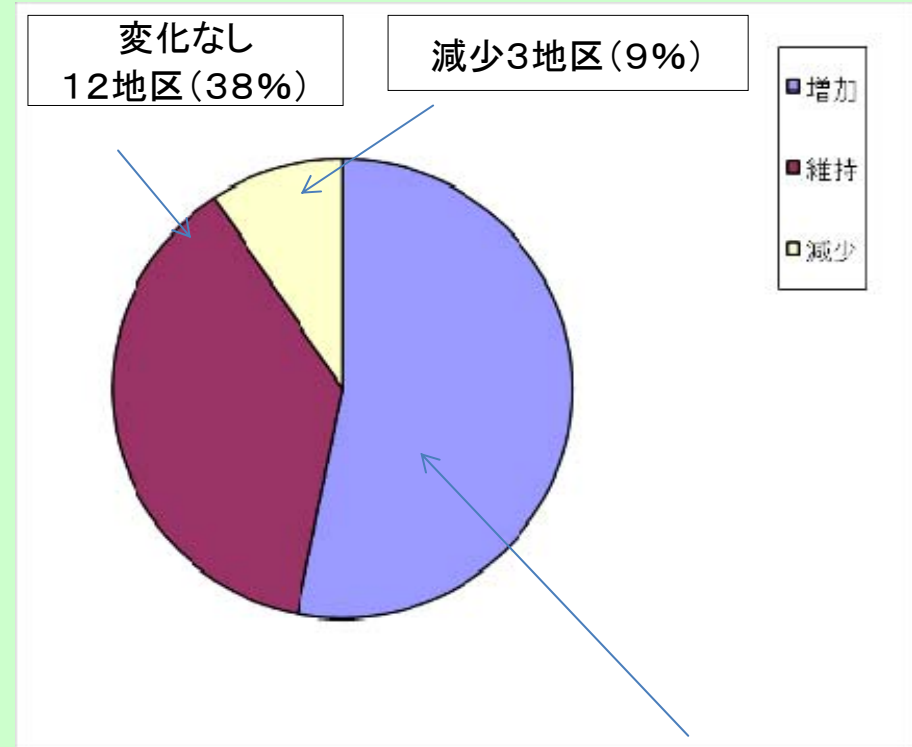
○有機JAS取得者の推移(回答数32地区)



変化なし
14地区(44%)

567人 → 582人 (3%増)

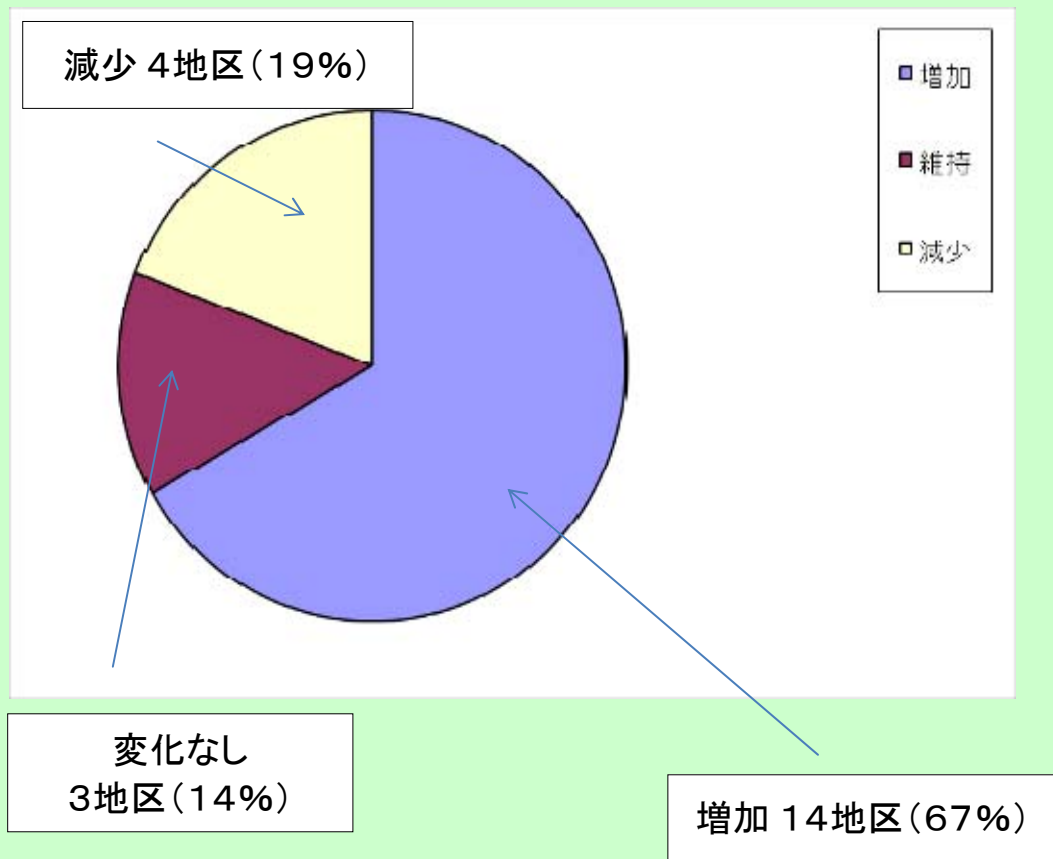
○有機JAS栽培面積の推移(回答数32地区)



増加 17地区(53%)

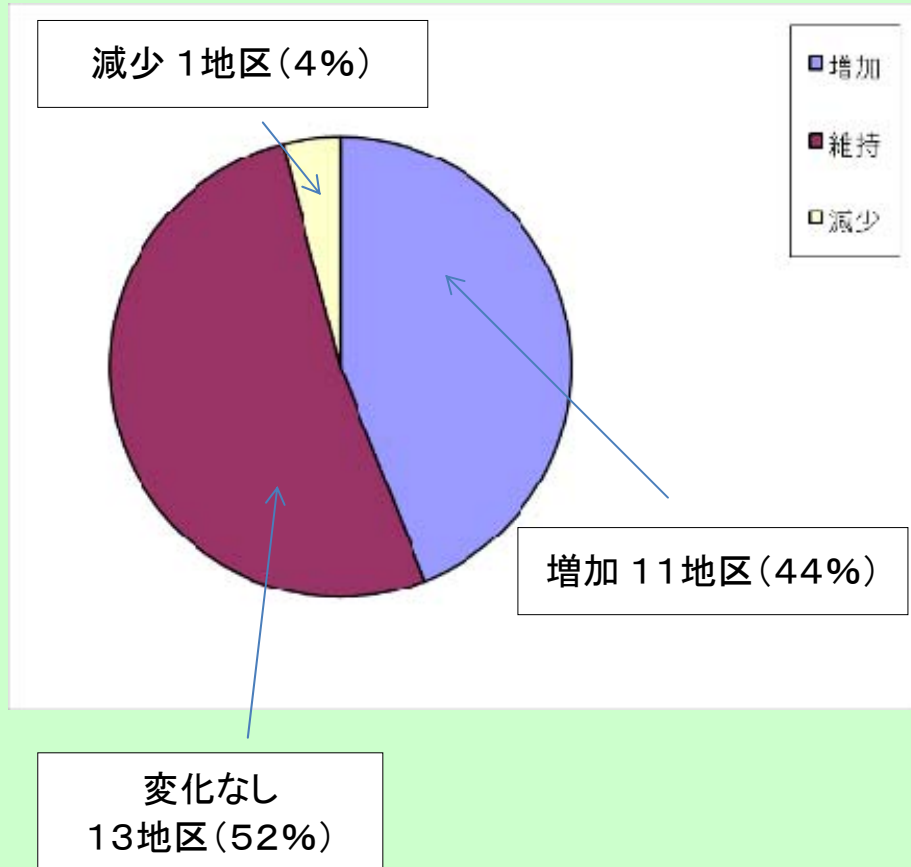
645ha → 723ha (12%増)

○有機JAS認証農産物収穫量の推移(回答数21地区)

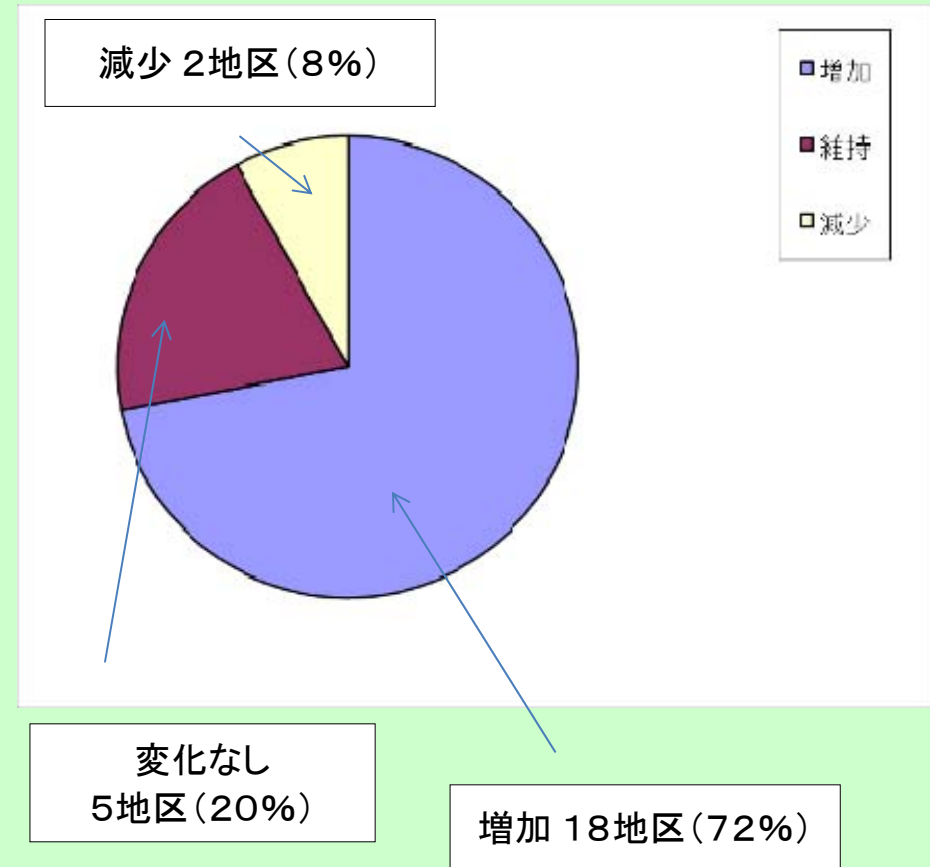


8,018t → 8,380t (5%増)

○有機農産物の学校給食への供給件数の推移(回答数25地区)



○有機農産物の学校給食への供給量の推移(回答数25地区)



全国有機農業モデルタウン会議の目的

- 事業実施地区間の情報交換・相互交流
- 課題解決の糸口の発見・取組内容の充実
- 消費者・流通関係者との連携促進(⇒販路確保)